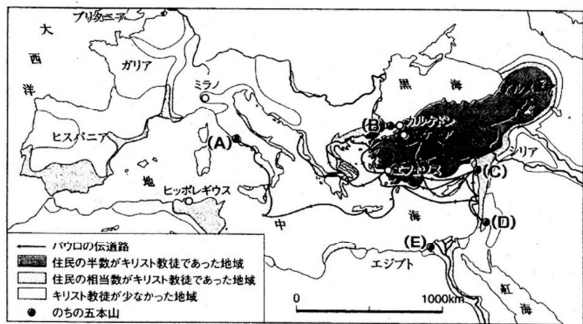


ローマ帝国の変貌

- (1) [①] (ドミナトゥス)への転換 **ローマの政治体制…共和政→元首政→専制君主政**
- ① [②] (位 284 ~ 305) の改革…四分統治制 (2 人の正帝, 2 人の副帝) 皇帝崇拜を強化
- ② [③] (位 324 ~ 337) …行政機構整備, 軍事改革
- ソリドゥス金貨の創設…金貨を基本通貨とする地中海の国際交易の安定を企図
- ビザンティウムに遷都し [④] (現イスタンブル) と改称 (330)
- (2) [⑤] の進展 **ローマの土地制度…ラティフンディア→コロナートゥス**
- … [⑥] (小作人) に農地を貸して耕作させる制度 小作人は自由身分だが移動禁止
- (3) [⑦] 死後, 帝国は東西に分割 (395) →中心は東地中海世界へ

キリスト教の布教と聖なる世界

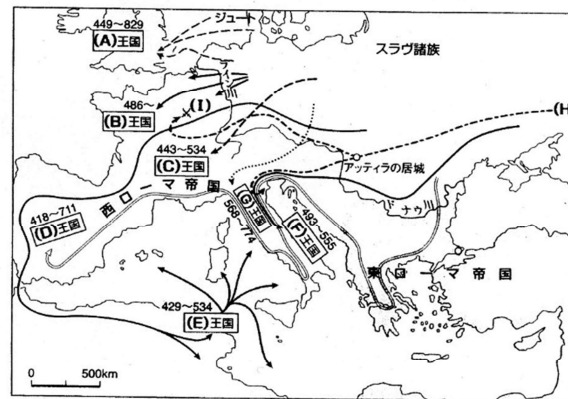
- (1) 禁欲思想の広まり (3 世紀ごろ) …苦行者を慕い, 修道院を開設
- (2) 迫害と懐柔
- ① ネロ帝の迫害 (1 世紀) やディオクレティアヌス帝の迫害 (303 ~ 304) →しかしキリスト教は拡大
- ② コンスタンティヌス帝, [⑧] でキリスト教公認 (313) →皇帝との結びつき深い勢力拡大
- (3) 教義の統一, 国教化
- ① [⑨] 公会議 (325) …コンスタンティヌス帝が召集
- 正統…神としてのイエスを認める [⑩] の説
- 異端…人間としてのイエスを唱える [⑪] の説
- ② 「背教者」ユリアヌス帝の異教復興による混乱
- ③ テオドシウス帝が異教をすべて厳禁 (392) …キリスト教の国教化
- ④ [⑫] 公会議 (431) …神たるイエスと人たるイエスを分離する [⑬] は異端 →中国へ (景教)
- ⑤ カルケドン公会議 (451) …神たるイエスだけを認める単性論も異端
- 単性論派はエジプト, シリアなどでコプト教会, アルメニア教会など設立
- 神とイエスと聖霊は三者不可分とする [⑭] の確立
- (4) [⑮] の著作 エウゼビオス『教会史』…皇帝位は神の恩寵により付与 →王権神授説の根拠
- [⑯] 『告白』『神の国』 →西ヨーロッパ中世のスコラ学に影響



↑ 4 世紀前半のキリスト教徒の分布

ゲルマン人の大移動と帝国の分裂

- (1) インド=ヨーロッパ語系の [①] の大移動 (4 世紀後半) ←遊牧民 [②] の西進
- (2) ゲルマン諸族の動向…先住民ケルト人を圧迫して移動
- ① [③] …フン人支配下 → テオドリック王期にイタリア半島に進出, オドアケルを倒して建国
- ② [④] …ドナウ川を越えて帝国内へ移動 → イベリア半島に建国
- ③ [⑤] …北アフリカに建国
- ④ [⑥] …ガリア中部に建国
- ⑤ [⑦] …ガリア北部に建国
- ⑥ [⑧] …北イタリアに建国
- ⑦ [⑨] …ブリタニアに建国
- (3) フン人…パンノニア平原を拠点とし, アッティラが率いて強大化
- カタラウムの戦い (451) でローマ・ゲルマン人連合軍にやぶれ瓦解
- (4) 西ローマ帝国の滅亡 (476) …ゲルマン人傭兵隊長 [⑩] が西の皇帝位を返上させる



↑ゲルマン人の大移動

4 地中海世界と西アジア

東地中海のローマ帝国

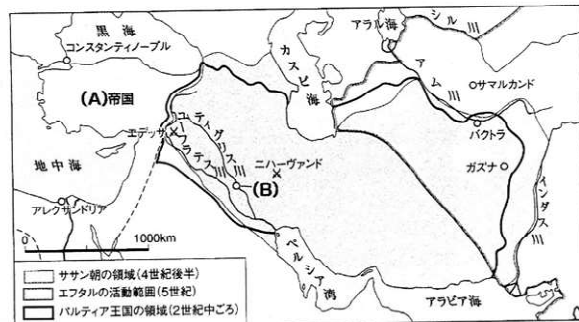
- (1) [①] の活況…首都 [②] を中心として繁栄, 商工業も隆盛
- (2) [③] (位 527 ~ 565)
- ① 東ゴート王国, ヴァンダル王国など滅ぼし, ローマ帝国領の大半を奪回
- ② ローマ法を集大成した『[④]』を編纂
- ③ 中国から養蚕技術を導入し絹織物業を開始
- (3) 帝国勢力の後退 (スラヴ人の移住, 騎馬遊牧民アヴァール人の侵入, ササン朝ペルシアの攻勢など)
- 独自世界は存続

バルティア王国

- (1) [①] (アルサケス朝, 安息)
 …イラン系遊牧民族長 [②] が建国(前 248 ごろ) ←セレウコス朝シリアから独立
- (2) 最盛期(前 2 世紀) …セレウコス朝を圧迫 新都 [③] 建設
- (3) ギリシア語文化圏から離脱 → [④] (アラム文字で表記) が公用語に

ササン朝ペルシア帝国

- (1) [⑤] (226 ~ 651) の成立…イラン高原南部
- ① [⑥] がバルティア王国を倒して建国
- ② [⑦] (3 世紀) …領土を拡大
 西…シリア進出 → ローマ帝国と対抗 皇帝ウァレリアヌスを捕虜とする (260)
 東…クシャーナ朝を衰退させる
- ③ 中央アジアの遊牧民 [⑧] の侵攻に苦しむ (5 世紀)
- ④ [⑨] …突厥と結びエフタルを滅ぼす (6 世紀)
 東ローマのユスティニアヌス帝に対抗
- ⑤ ニハーヴァンドの戦い (642) でイスラーム軍に敗退 → 滅亡 (651)
- (2) 銀貨を使用し, 西アジア中心の広大な銀経済圏成立 ローマ帝国は金貨使用



↑バルティア王国, ササン朝ペルシアの領域

ペルシア文明

- (1) 集約農業の発展 → ササン朝の繁栄を支える
- ① イラン高原…山麓の井戸利用の灌漑施設(カナート)整備
- ② メソポタミア…農地の再開発
- (2) ヘレニズムの要素が加わった新しいペルシア文明(ササン朝美術) …ガラス器, 銀製品, 織物など
- ① 同時代の中国・日本, 後世のイスラーム美術に影響
- ② 文明の伝播…ササン朝の水さし → 正倉院の漆胡瓶 ササン朝の獅子狩銀製皿 → 法隆寺の獅子狩文錦など
- (3) 国教: [⑩] …経典 [⑪] の編纂
- (4) [⑫] …マニが仏教, キリスト教, ユダヤ教を融合して創始 (3 世紀)